県立博物館平成７年度第１回企画展案内

# 『探検 貝化石ワールド』

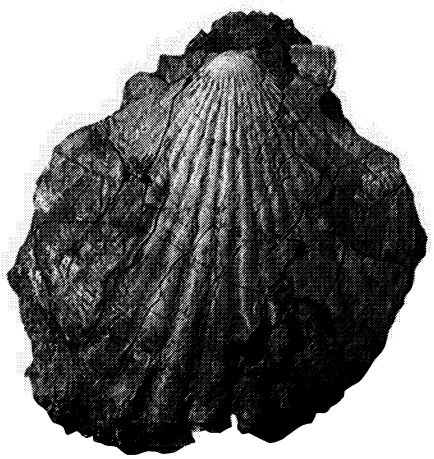
## ―地層にきざまれた海の記憶―

会　期　　４月22日(土)～６月11日(日)
休館日　　月曜日、祝日の翌日

みなさんは化石を見つけたことがありますか。化石はご存じのとおり大昔の生き物の遺体が地層から発見されたものです。海底にたまってできた地層の中から貝の化石はよく見つかります。それは貝がもともとたくさん海底にすんでいたということ、固いからをもっているので化石として残りやすいこと、大きさが手ごろでみつけやすいことなどのためです。とくに福島県は貝化石の宝庫として知られています。

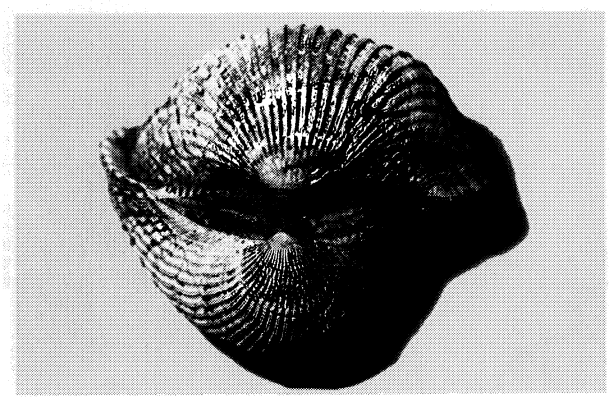
貝は種類によって住んでいる場所がちがいます。アサリやシジミのように、砂浜の砂にもぐって生活しているものもいれば、サザエやアワビのように磯の水中に住んでいるものもいますし、ベニオキナエビスやオオイトカケなどの貝は深さ二〇〇メートルくらいの深い海底に住んでいます。また、寒流が流れる北の冷たい海と暖流にかこまれた南のあたたかい海では、住んでいる貝の種類がちがいます。

このことから逆に、ある地層から見つかる貝の化石の種類を調べると、むかしそれらの貝が住んでいた海の深さや海水の温度、海岸のようすなどがわかります。この企画展では、おもに福島県内の三億年にわたる地層から見つかる貝の化石を調べて、この地域をとりまく海のようすがどのように移り変わってきたかを明らかにします。



▲ヒラウネホタテ（右殻）・下中津川層
（昭和村下中津川本名信一氏蔵）

▲タマキガイの化石の密集した地層・
石熊層（浪江町小野田）



▲両殻のそろったニノヘサルボウ・
久保田層（棚倉町寺山館蔵）